

# 白銅株式会社(7637)

## 2024年3月期 決算説明資料

---

2024年5月10日

# 目次

---

1. 2024年3月期 決算内容 P 2
2. 2025年3月期 業績予想 P 18
3. 中期経営計画達成に向けた取り組み  
と進捗状況 P 23

# 2024年3月期 決算内容

---

# 決算ハイライト

## 売上高

57,253百万円  
(前連結会計年度比▲7.1%)

## 売上総利益

9,267百万円  
(前連結会計年度比▲8.7%)

## 経常利益

2,847百万円  
(前連結会計年度比▲28.6%)

## 2024年3月期サマリ

### <売上高>

- ・半導体製造装置業界の停滞が継続し、前連結会計年度比で7.1%減少。
- ・当連結会計年度より北米売上高4,586百万円が追加され、海外セグメントの売上高は前連結会計年度比で4,553百万円増加。

### <売上総利益>

- ・売上高減少による減益に加え、棚卸資産影響額の差益が前連結会計年度比で399百万円減少した影響などにより、前連結会計年度比8.7%減少。

### <経常利益>

- ・受取配当金や為替差益などの営業外収益の計上があったものの、運賃や人件費等の各種コスト上昇の影響が大きく、前連結会計年度比28.6%減少。

# 連結損益計算書（PL）サマリ

- 売上高は、半導体製造装置業界の停滞継続による販売重量減少の影響が大きく、前連結会計年度比4,349百万円の減収。
- 経常利益は、各種コストの増加や棚卸資産影響額の差益減少により、前連結会計年度比1,141百万円の減益。

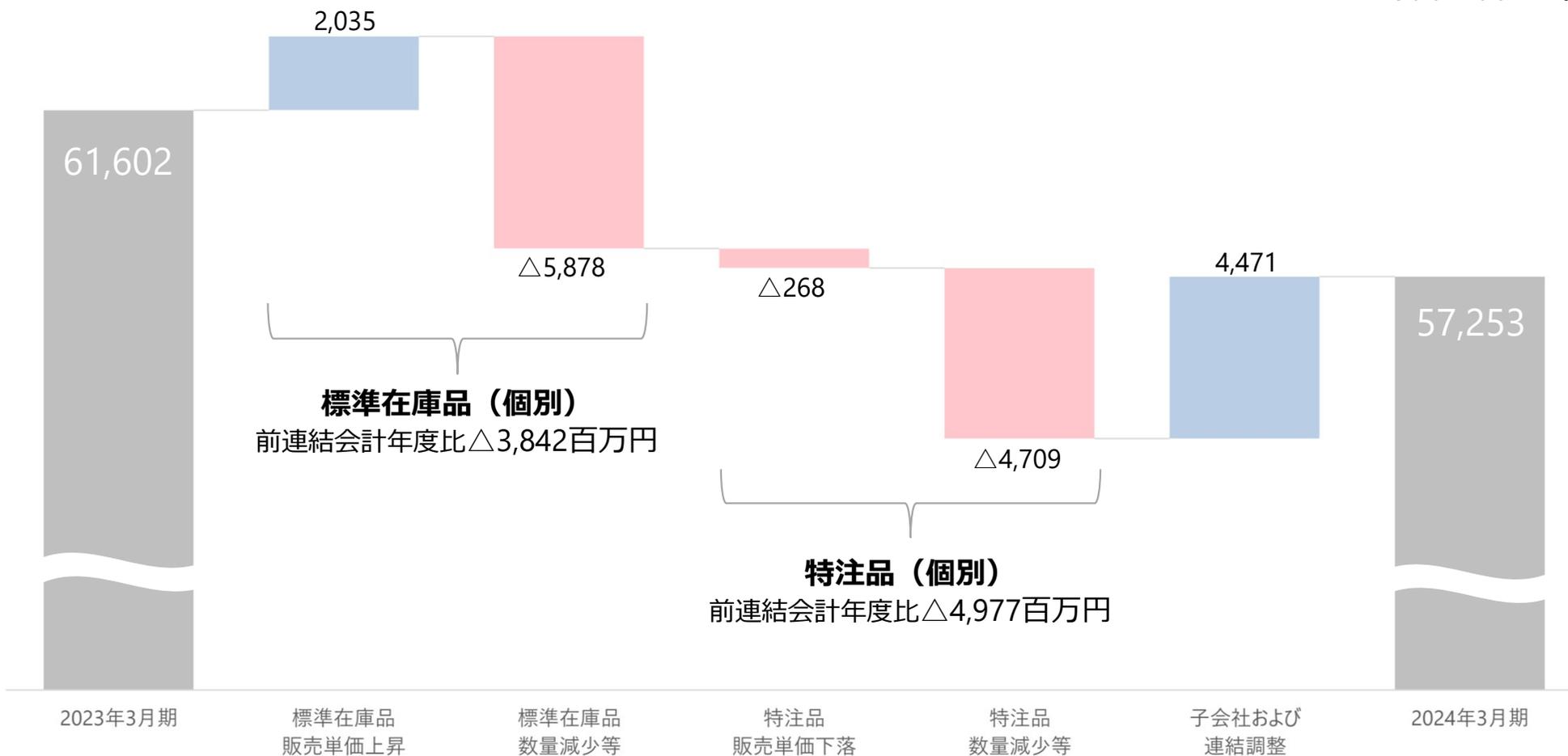
単位：百万円

	2023年3月期	売上高 比率	2024年3月期	売上高 比率	増減率	増減額
売上高	61,602	-	57,253	-	△7.1%	△4,349
標準在庫品	38,322	62.2%	34,460	60.2%	△10.1%	△3,861
特注品	23,279	37.8%	22,792	39.8%	△2.1%	△487
売上総利益	10,152	16.5%	9,267	16.2%	△8.7%	△884
営業利益	3,777	6.1%	2,523	4.4%	△33.2%	△1,254
経常利益	3,988	6.5%	2,847	5.0%	△28.6%	△1,141
棚卸資産影響額 (△は損)	505	0.8%	105	0.2%	△79.0%	△399
経常利益 (棚卸資産影響額を除く)	3,483	5.7%	2,741	4.8%	△21.3%	△742
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,737	4.4%	1,916	3.3%	△30.0%	△820

# 売上高の前連結会計年度比差異要因

原材料市況の影響等により標準在庫品の販売単価は上昇しているものの、販売数量減少の影響が大きく、標準在庫品（個別）の売上高は、前連結会計年度比3,842百万円の減収。

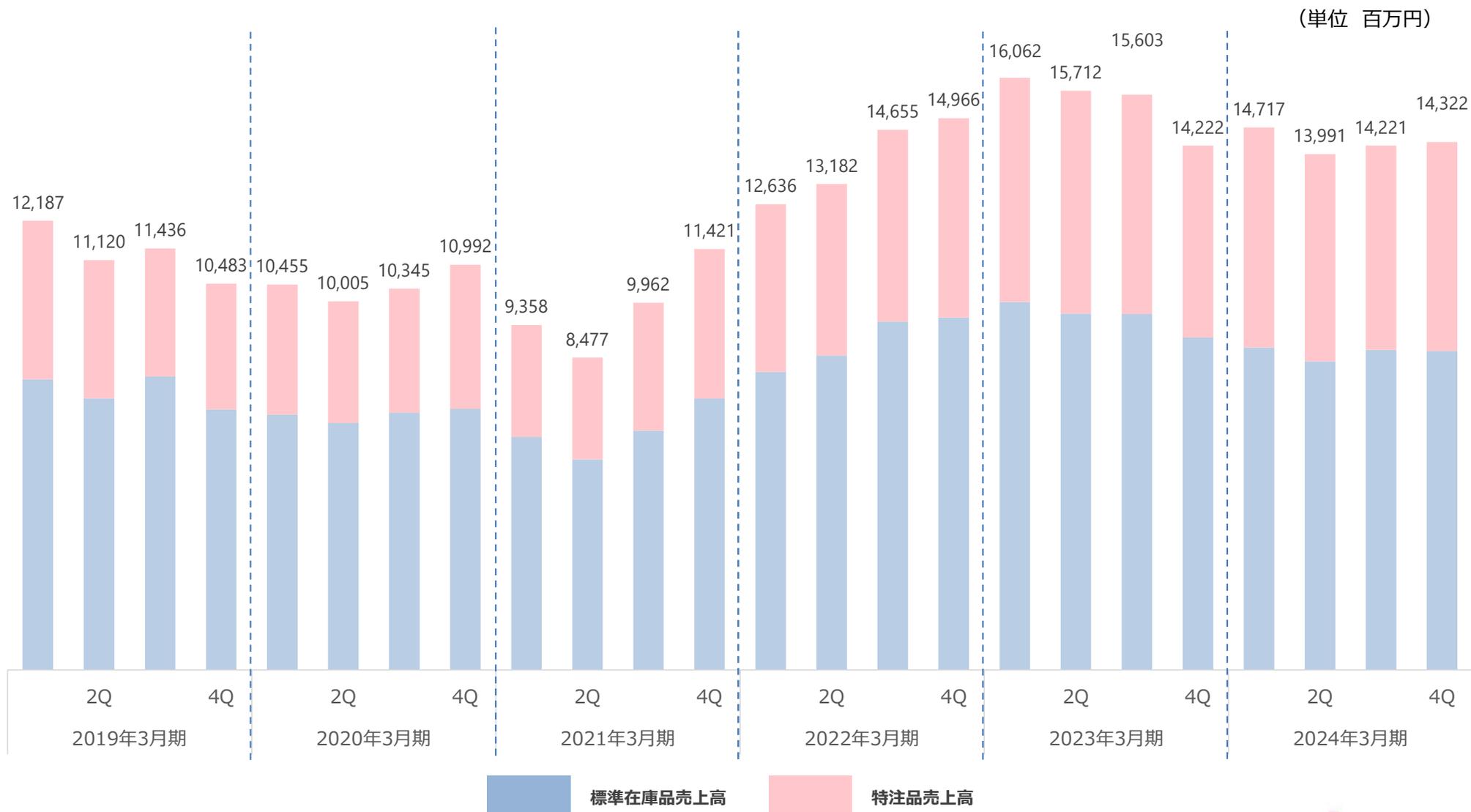
(単位 百万円)



前連結会計年度比 白銅個別標準在庫品 販売重量：△15.0% 販売単価：+6.3%

# 売上高の四半期毎推移

当連結会計年度より北米売上高が加わったものの、半導体製造装置業界向けの販売量減少を主因とし、前連結会計年度第1四半期をピークに減少、直近は横ばい。



# 品種別売上高

- ステンレスは、北米の売上高が加わったことで増加。
- 半導体製造装置業界向けの主力商品であるアルミニウムの売上高が、業界の停滞継続により前連結会計年度比14.0%の減収となっており、連結売上高全体では7.1%の減収。

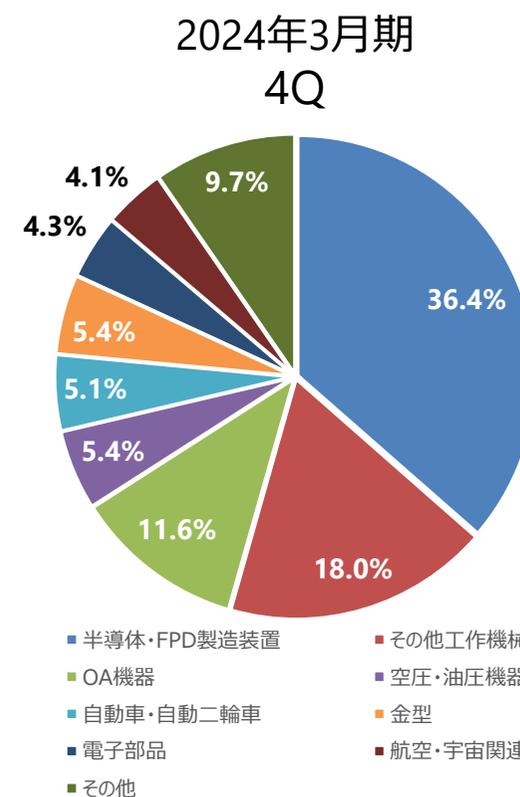
単位：百万円

	2023年 3月期				計	2024年 3月期				計	前年 4Q 期間比	前連結 会計 年度比
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q			
連結売上高	16,062	15,712	15,603	<b>14,222</b>	<b>61,602</b>	14,717	13,991	14,221	<b>14,322</b>	<b>57,253</b>	0.7%	△7.1%
アルミニウム	10,694	10,249	10,076	<b>8,800</b>	<b>39,821</b>	9,060	8,339	8,244	<b>8,587</b>	<b>34,232</b>	△2.4%	△14.0%
伸銅	2,106	2,010	2,134	<b>2,248</b>	<b>8,500</b>	2,138	2,024	2,126	<b>2,141</b>	<b>8,431</b>	△4.8%	△0.8%
ステンレス	2,565	2,607	2,632	<b>2,414</b>	<b>10,218</b>	2,830	2,971	3,074	<b>2,947</b>	<b>11,824</b>	22.1%	15.7%
その他	696	844	761	<b>759</b>	<b>3,061</b>	687	655	774	<b>645</b>	<b>2,764</b>	△14.9%	△9.7%

# 業界別売上高構成比率（国内）

- 半導体・FPD製造装置向けの売上高構成比率が前連結会計年度比で減少。
- 一方で、成長領域に位置付けている航空・宇宙関連、自動車・自動二輪車業界においては売上高および売上高構成比率が増加。

	2023年3月期					2024年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	4Q	累計
半導体・FPD製造装置	47.2%	45.0%	43.0%	37.5%	43.4%	39.3%	38.5%	36.2%	36.4%	37.6%
その他工作機械	15.0%	15.4%	15.5%	17.3%	15.7%	17.7%	17.7%	18.3%	18.0%	17.9%
OA機器	8.6%	7.8%	8.6%	9.9%	8.7%	8.9%	9.0%	8.8%	11.6%	9.6%
空圧・油圧機器	6.5%	6.9%	7.8%	7.4%	7.1%	7.1%	5.5%	5.7%	5.4%	5.9%
自動車・自動二輪車	4.3%	4.9%	4.9%	4.9%	4.7%	4.7%	5.9%	6.3%	5.1%	5.5%
金型	4.1%	4.7%	5.2%	5.6%	4.8%	4.8%	5.5%	5.6%	5.4%	5.3%
電子部品	3.7%	4.1%	4.0%	4.3%	4.0%	4.1%	4.3%	4.2%	4.3%	4.2%
航空・宇宙関連	3.1%	2.9%	3.1%	3.7%	3.2%	4.4%	3.8%	4.6%	4.1%	4.3%
その他	7.6%	8.3%	7.8%	9.3%	8.2%	9.0%	9.6%	10.3%	9.7%	9.6%



# セグメント別業績

- 北米は昨年取得したWest Coast Aluminum & Stainless, LLCの債務免除益70百万円などの営業外収益の計上があったものの、PMI費用等の計上もあり、205百万円の営業損失および97百万円の経常損失が発生。
- 中国では、内需向け・外需向けともに需要が低迷し、9百万円の経常損失となった。
- 一方その他セグメント（タイ）では、経常利益が前連結会計年度比で46百万円増益。

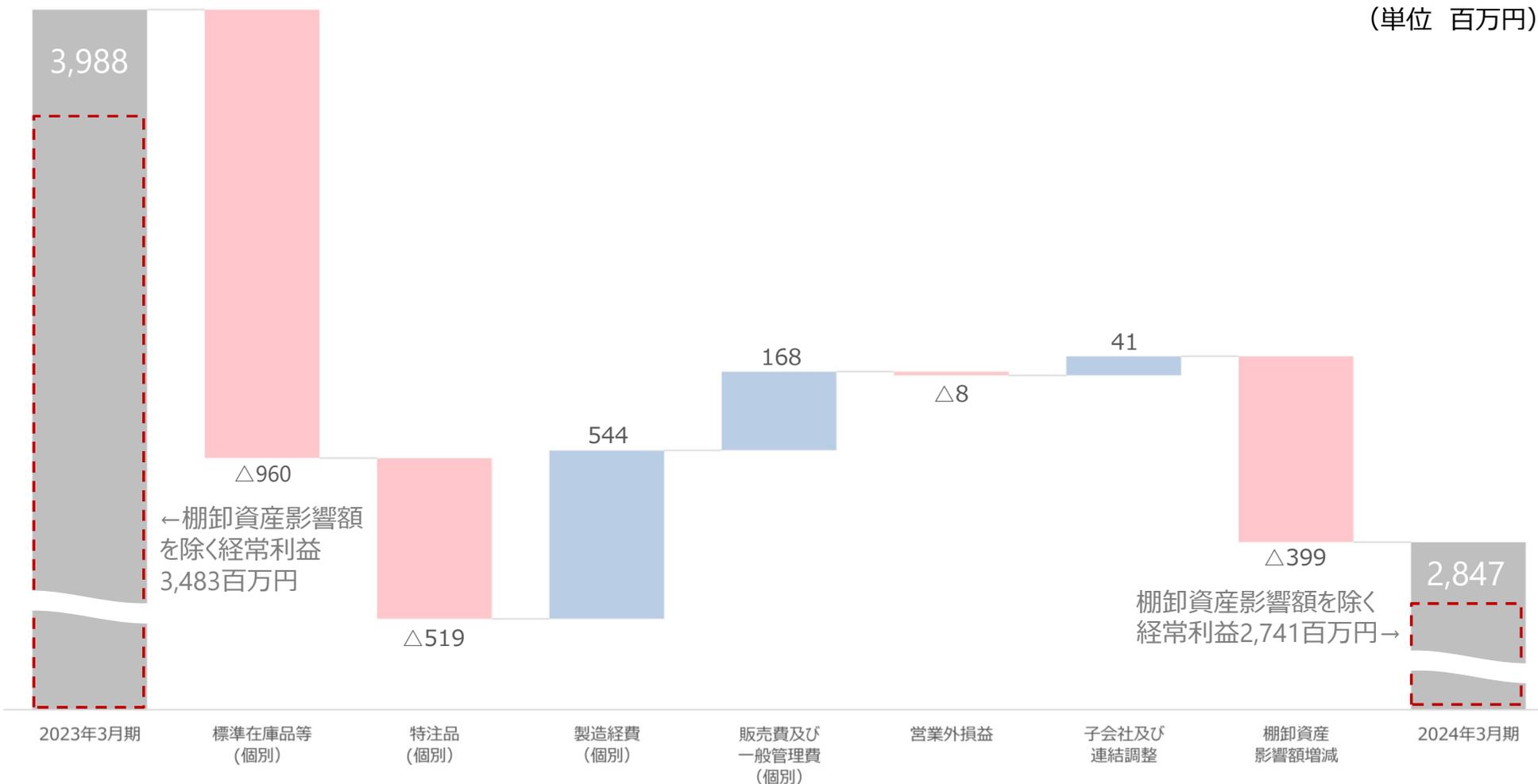
単位：百万円

	2023年 3月期				2024年 3月期			
	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 当期純利益 又は 当期純損失	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 当期純利益 又は 当期純損失
日本	58,803	3,810	3,995	2,776	49,900	2,627	2,814	1,885
北米	-	△126	△126	△126	4,586	△205	△97	△71
中国	1,581	△0	25	14	1,360	△39	△9	△11
その他	1,216	93	94	72	1,405	141	141	114

# 経常利益の前連結会計年度比差異要因

- 標準在庫品・特注品ともに販売重量減少の影響で大きく減少。
- また、運賃や電気料金をはじめとする販売重量あたりの各種コストの上昇や、棚卸資産影響額の差益減少などにより、前連結会計年度比1,141百万円の減益。

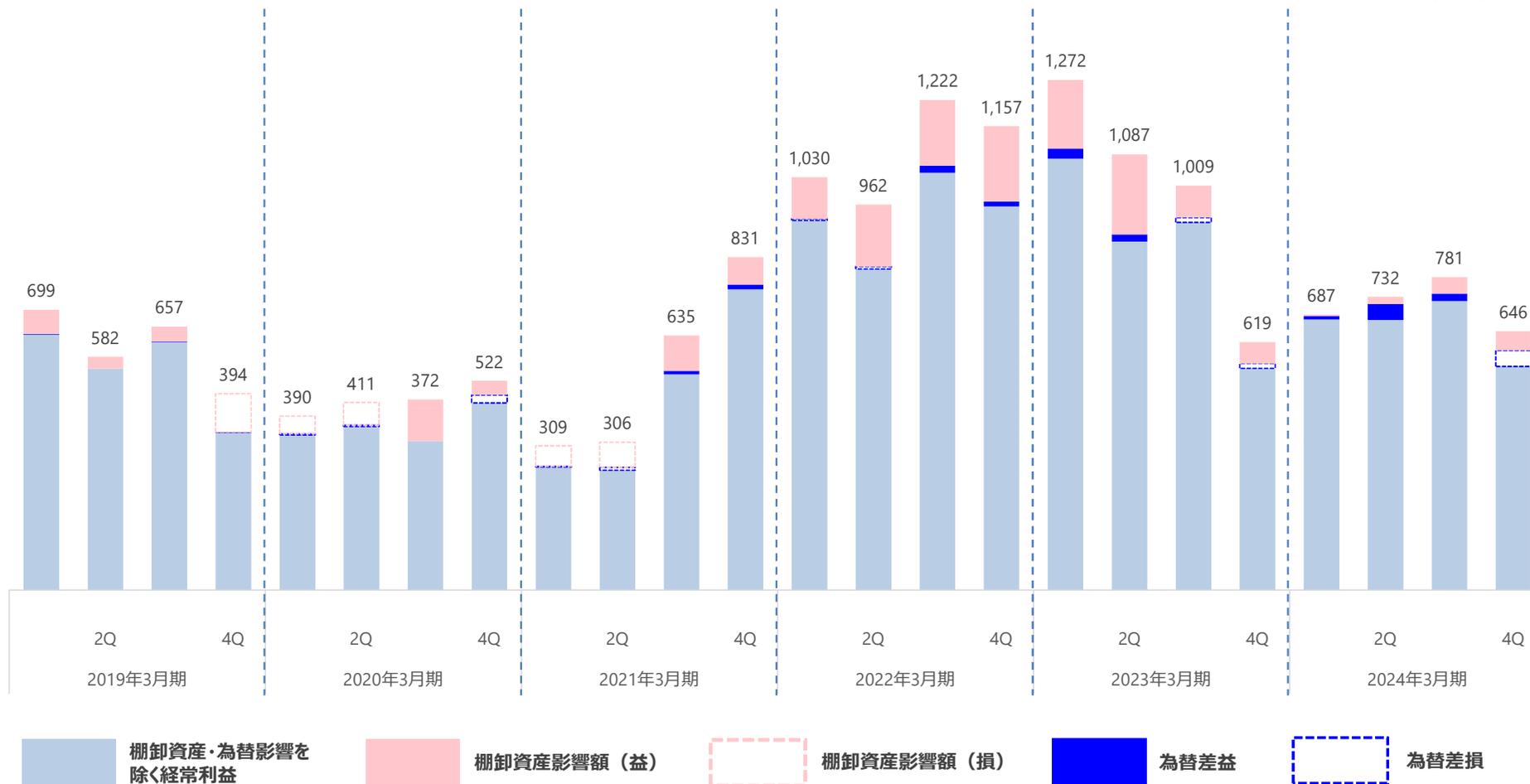
(単位 百万円)



# 経常利益の四半期毎推移

- 棚卸資産影響額差益の増加により、前年4Q期間比で26百万円の増益。
- 前四半期(3Q)対比では、為替差益の減少や北米の経常損失の影響で135百万円の減益。

単位：百万円



# 貸借対照表 (BS)

- 売上高の減少により、棚卸資産・売掛金・買掛金が大きく減少。
- 設備投資の増加等により固定資産が567百万円増加。

単位：百万円

資産の部	2023年3月末	構成比率	2024年3月末	構成比率	増減
流動資産	33,829	78.4%	32,128	76.5%	△1,701
現金及び預金	6,038	14.0%	5,700	13.6%	△337
受取手形及び売掛金 (含 電子記録債権)	16,835	39.0%	16,052	38.2%	△782
棚卸資産	10,631	24.6%	10,221	24.3%	△410
その他流動資産	324	0.8%	153	0.4%	△171
固定資産	9,319	21.6%	9,887	23.5%	+567
有形固定資産	6,250	14.5%	6,653	15.8%	+403
無形固定資産	1,413	3.3%	1,422	3.4%	+8
投資その他の資産	1,655	3.8%	1,811	4.3%	+155
資産合計	43,149	100.0%	42,015	100.0%	△1,133
負債及び純資産の部	2023年3月末	構成比率	2024年3月末	構成比率	増減
流動負債	21,768	50.4%	19,420	46.2%	△2,348
支払手形及び買掛金 (含 電子記録債務)	19,020	44.1%	17,147	40.8%	△1,873
未払金・未払費用	860	2.0%	788	1.9%	△71
未払法人税等	579	1.3%	324	0.8%	△255
その他流動負債	1,308	3.0%	1,160	2.8%	△148
固定負債	151	0.4%	114	0.3%	△37
負債合計	21,920	50.8%	19,534	46.5%	△2,385
純資産	21,229	49.2%	22,481	53.5%	+1,251
負債純資産合計	43,149	100.0%	42,015	100.0%	△1,133

## 流動資産 △1,701百万円

- 売上高の減少による棚卸資産および売掛金の減少

## 固定資産 +567百万円

- 太陽光パネルの購入や各種機械装置購入に伴う有形固定資産増加

## 流動負債 △2,348百万円

- 売上高減少に伴う支払手形及び買掛金の減少

## 固定負債 △37百万円

## 純資産 +1,251百万円

# キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、売上高減少に伴う運転資金の減少で、+2,527百万円となった。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、国内における設備投資・IT投資など実施により、△1,612百万円となった。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済（米国孫会社）や配当金の支払いにより、△1,328百万円となった。

(単位：百万円)

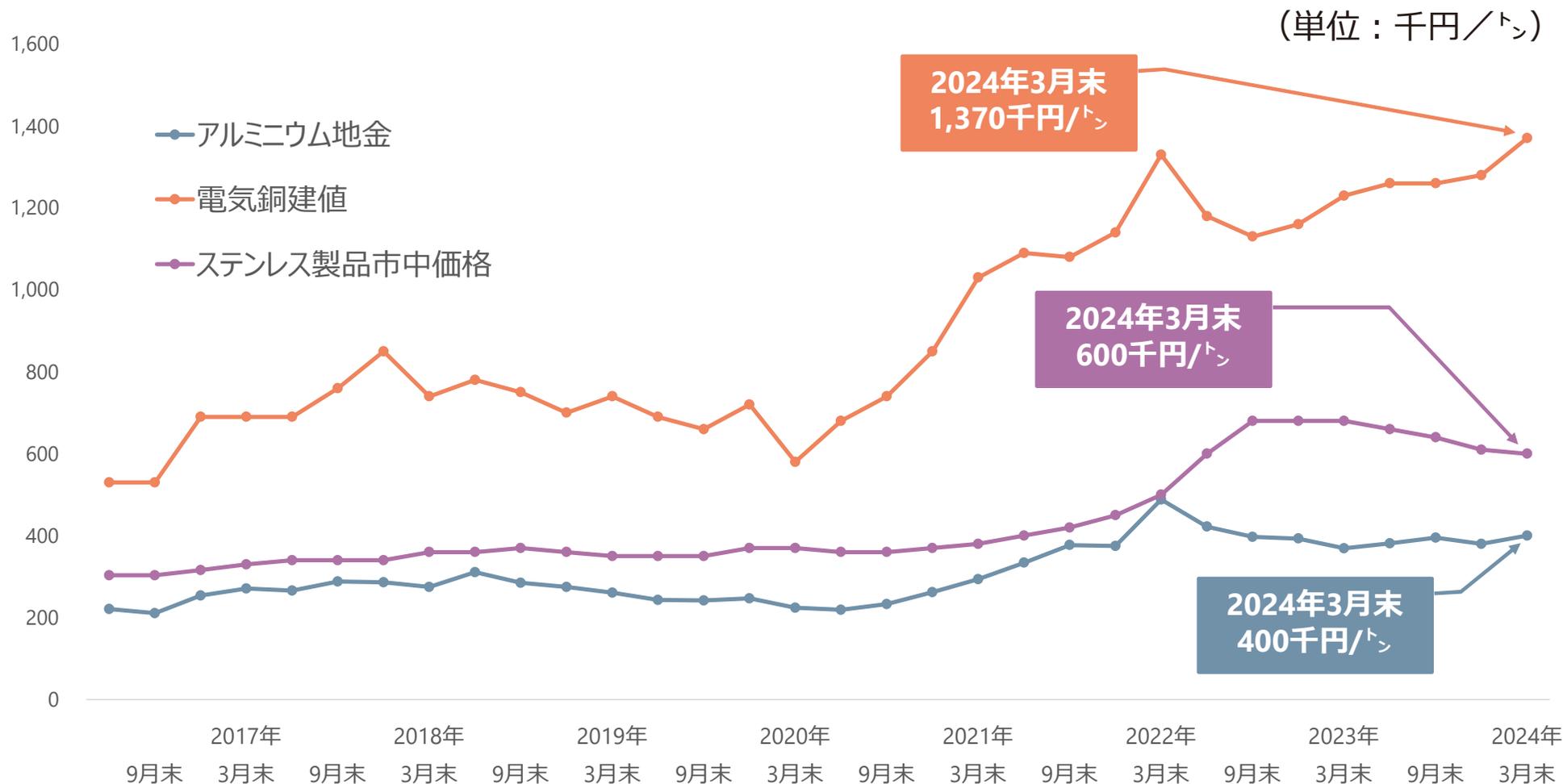
	2023年3月期	2024年3月期
営業活動による キャッシュ・フロー	321	2,527
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,552	△1,612
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,416	△1,328
現金及び現金同等物に係る 換算差額	11	75
現金及び現金同等物の 期末残高	6,038	5,700

## <主な内訳>

- ①営業活動によるキャッシュ・フロー +2,527百万円
- ・税金等調整前当期純利益 : + 2,847百万円
  - ・減価償却費 : + 1,048百万円
  - ・のれん償却 : + 41百万円
  - ・売上債権の増減額 (△は増加) : + 861百万円
  - ・棚卸資産の増減額 (△は増加) : + 499百万円
  - ・仕入債務の増減額 (△は減少) : △ 1,938百万円
  - ・法人税等の支払額 : △ 1,153百万円
- ②投資活動によるキャッシュ・フロー △ 1,612百万円
- ・有形固定資産の取得に伴う支出 : △ 1,338百万円
  - ・無形固定資産の取得に伴う支出 : △ 210百万円
  - ・投資有価証券の取得に伴う支出 : △ 56百万円
- ③財務活動によるキャッシュ・フロー △ 1,328百万円
- ・長期借入金の返済による支出 : △ 372百万円
  - ・配当金支払額 : △ 974百万円

# 事業環境（1） アルミニウム・銅・ステンレスの原材料市況

アルミニウム地金の価格は2022年3月まで上昇が長期継続。以降下落傾向であったが、直近は円安等の影響により再上昇。電気銅建値も急速に価格が上昇し最高値を更新。

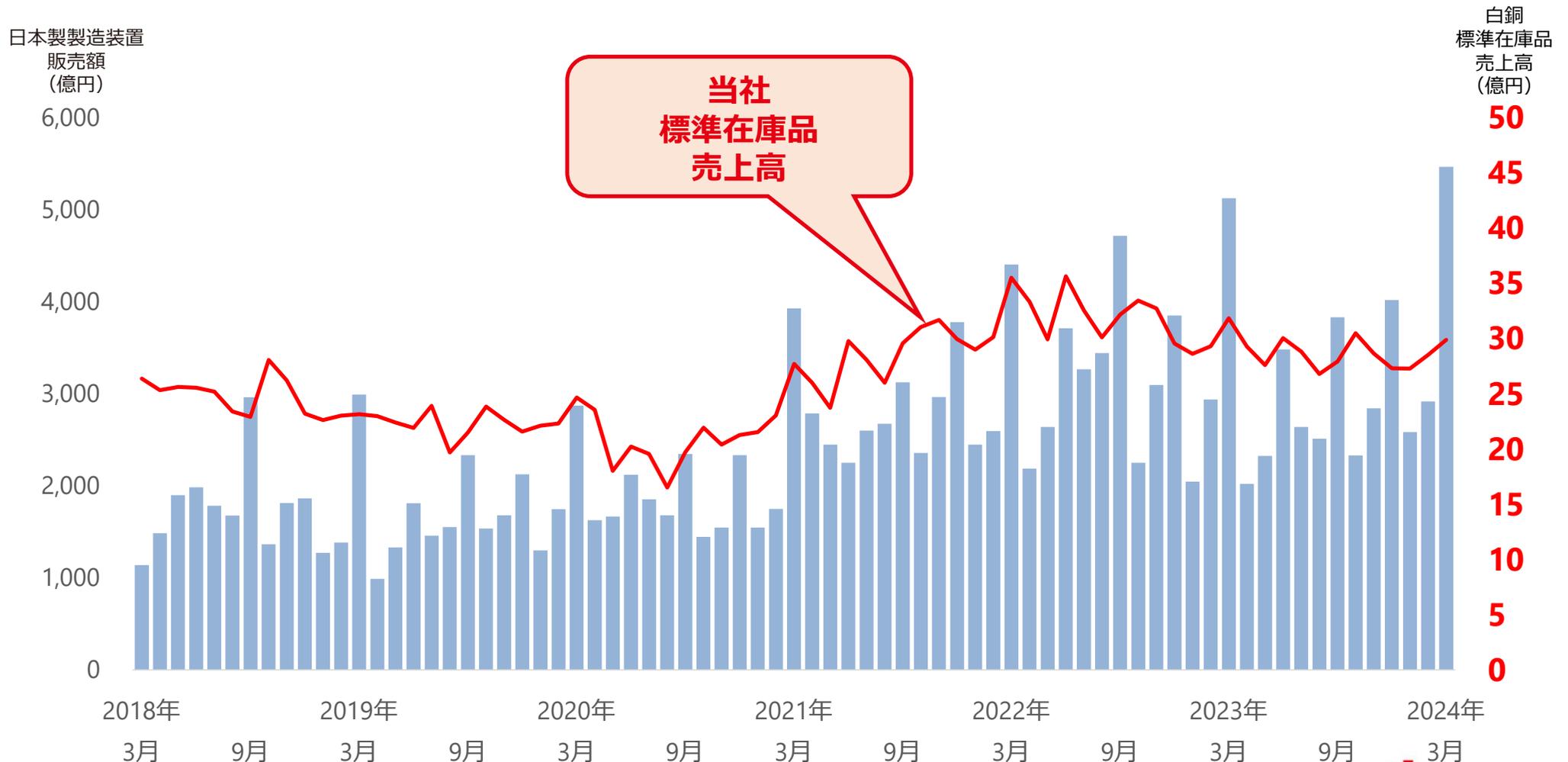


電気銅建値：JX金属による算出      ステンレス鋼板：鉄鋼新聞月別中心値  
 アルミニウム地金：日本経済新聞月別平均値

## 事業環境 (2) 半導体製造装置販売額と標準在庫品売上高との比較

長期的にはIoTやDX、生成AI、電気自動車の推進などによる需要拡大が予想されており、底打ち感は出てきたものの、本格的な回復には時間を要するものと見込まれる。

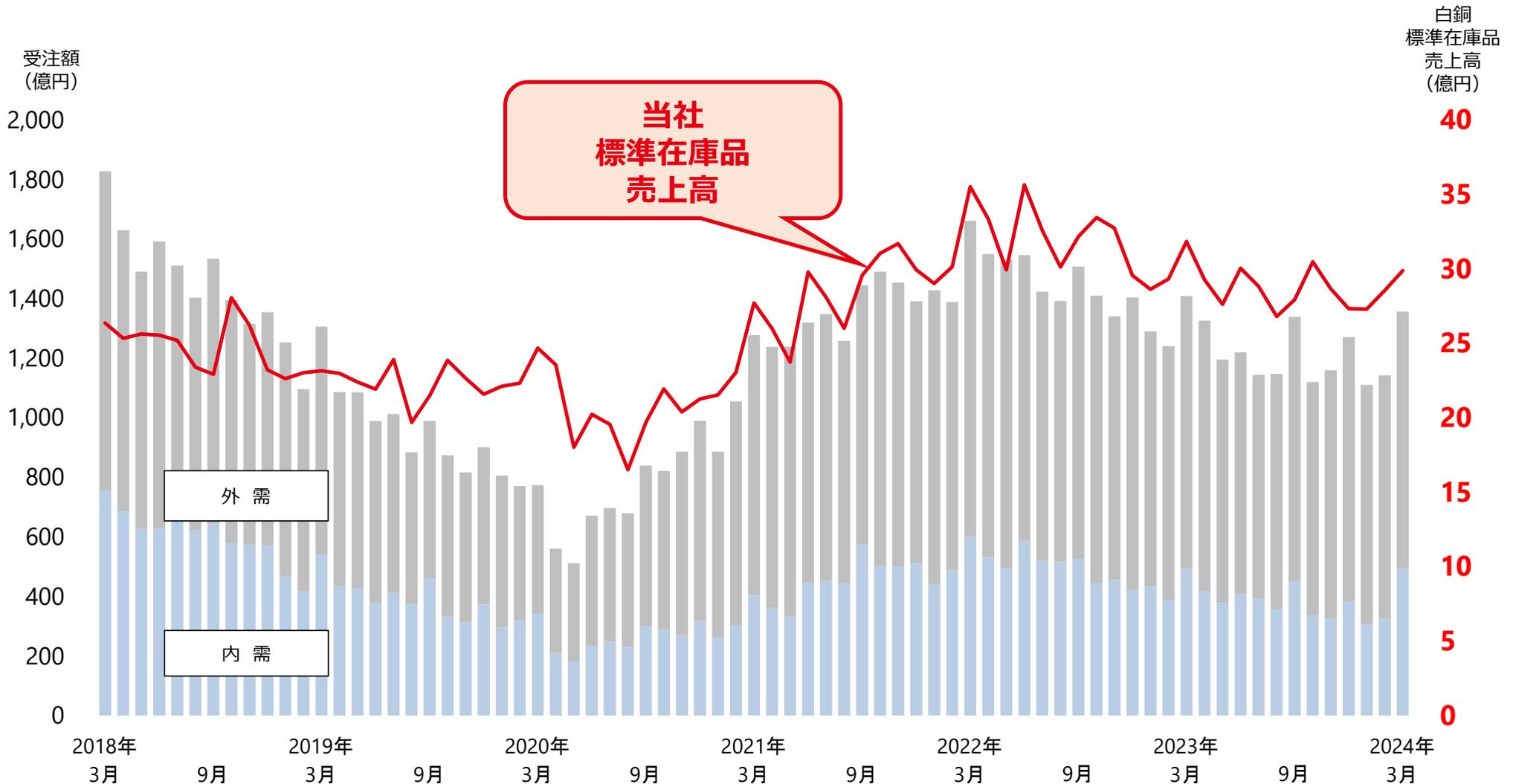
年度末には生成AIや中国向けに一時的な装置需要があったものの、半導体需要の多くを占めるメモリー半導体・ロジック半導体は需要回復に至っておらず、在庫等の調整局面が継続中。



出典：日本半導体製造装置協会 統計データ

# 事業環境 (3) 工作機械受注額と標準在庫品売上高との比較

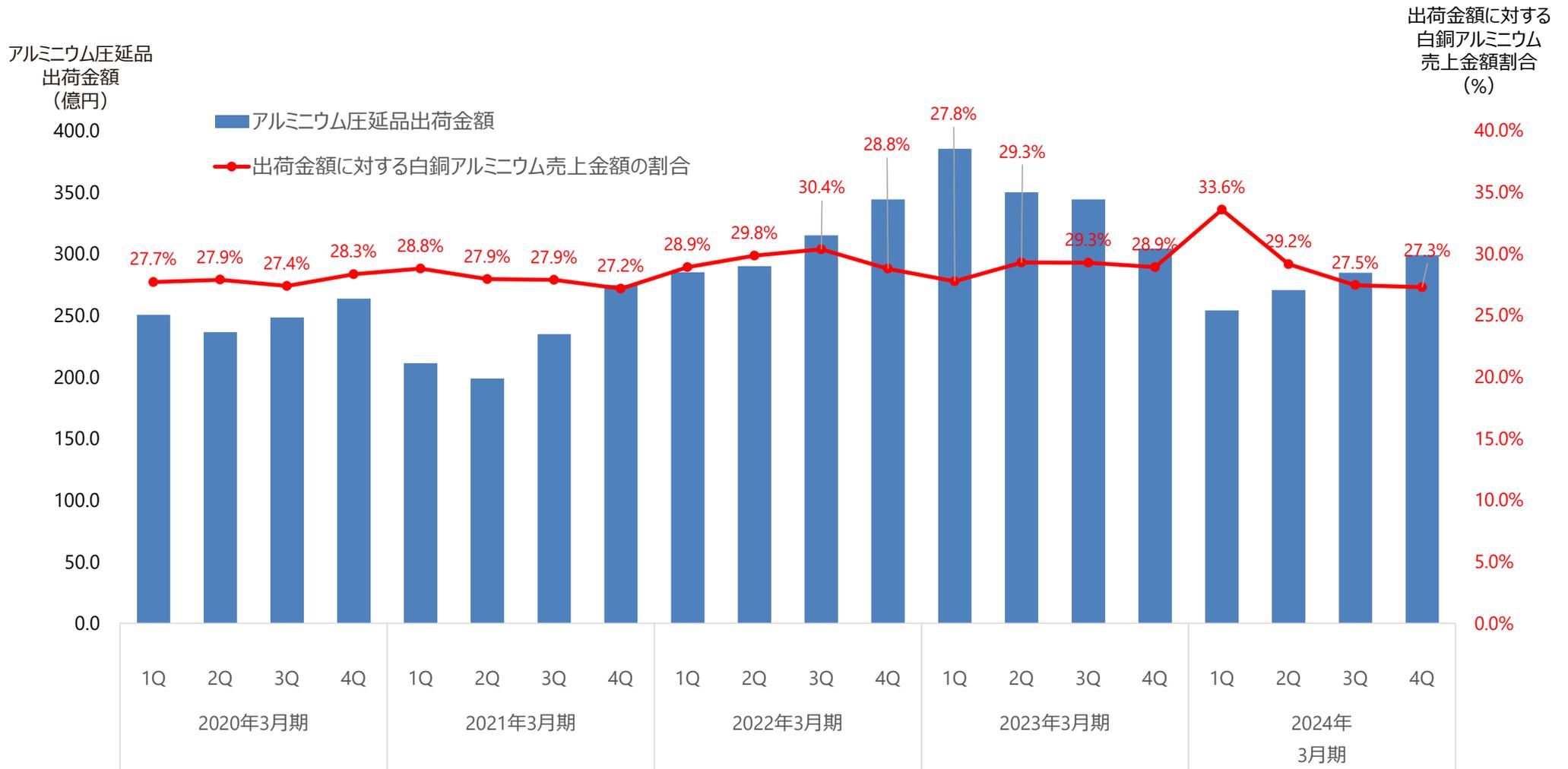
- 工作機械受注額は2022年3月をピークに下落の動きが継続中。
- 前年同四半期(1~3月)比で内需は14.6%、外需は5.3%受注額が減少。



出典：日本工作機械販売協会 工作機械受注統計

# 事業環境 (4) アルミ圧延品出荷金額と出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上割合

アルミ圧延品出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上は30%前後で推移し、当社業界シェアは大きな変化なし。



※ アルミニウム圧延品出荷金額は、板材(6.0mm以上)・円板・管・棒の合計

出典：一般社団法人 アルミニウム協会 アルミニウム圧延品統計月報より

# 2025年3月期 業績予想

---

# 2025年3月期 通期連結業績予想

- 当社グループ業績に影響が大きい半導体製造装置業界は長期的には需要拡大が想定され増収増益を見込むものの、足元では依然として調整局面が続いており、本格的な回復は、後半以降となることが見込まれる。
- 一方で、本格的な需要回復に向けた在庫・人員の確保に着手予定。

(百万円)	2024年3月期 実績	売上高 比率	2025年3月期 通期予想	売上高 比率	対前連結 会計年度 増減率	中期経営計画 2025年3月期 目標値
売上高	57,253	-	64,100	-	12.0%	71,800
営業利益	2,523	4.4%	3,060	4.8%	21.3%	-
経常利益	2,847	5.0%	3,200	5.0%	12.4%	5,400
棚卸資産影響額 (△は損)	105	0.2%	※ -	-	-	-
経常利益 (棚卸資産影響額を除く)	2,741	4.8%	3,200	5.0%	12.4%	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,916	3.3%	2,140	3.3%	11.7%	-

※原材料市況の予測は困難であるため、第1四半期連結累計期間までの予想を織り込んでおり、第2四半期以降は影響を織り込んでおりません。

# 株主還元策（配当方針）

財務体質の強化と業績に裏付けられた成果の配分を実施することを基本方針としており、株主還元策を強化すべく、2024年2月に配当方針を変更。

## 配当性向（通期）

変更前  
**40%以上**

変更後

**45%以上**

## 年間最低配当額（新設）

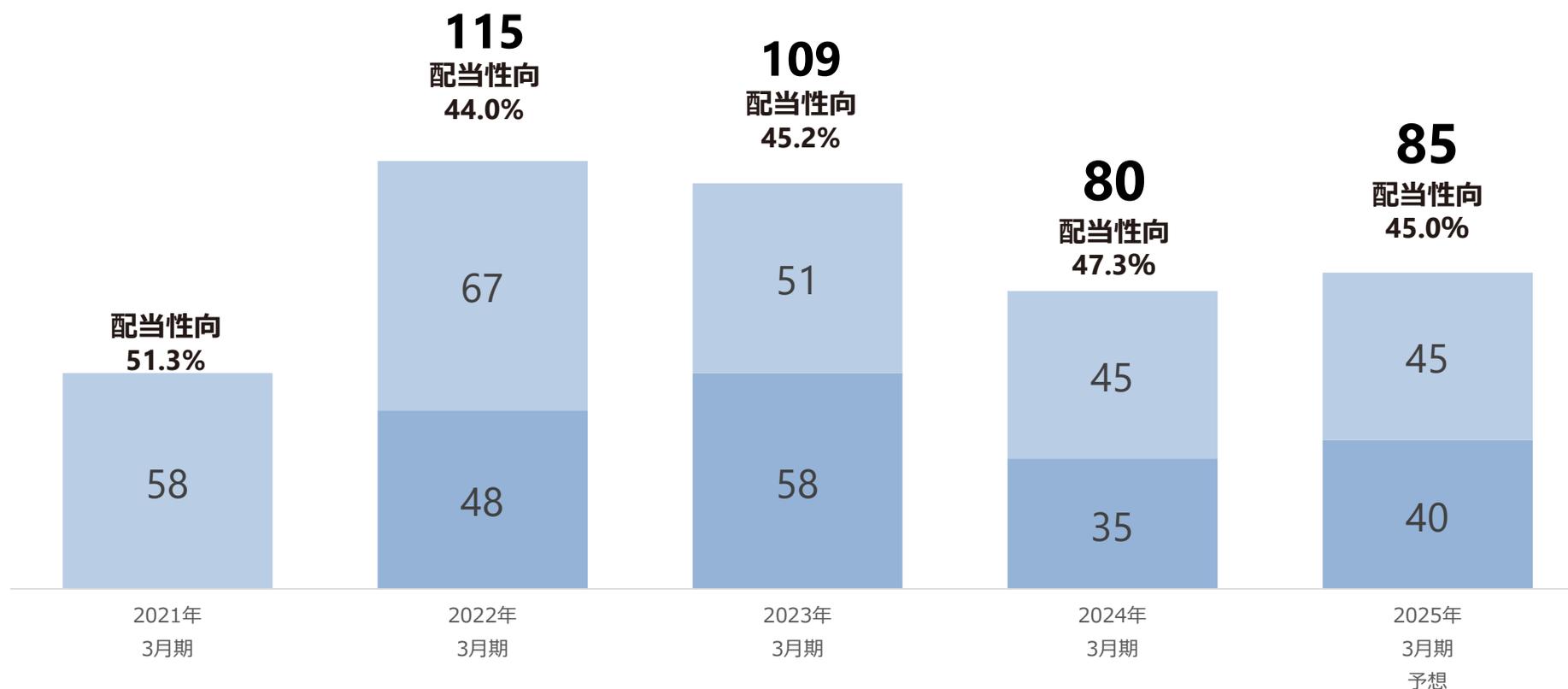
**80円**

**原則、いずれか高い金額を配当額とする。**

# 株主還元策（配当実績と予想）

- 変更後の配当方針に基づき、2025年3月期年間配当は1株あたり85円（前期比+5円）を予想。

## 2025年3月期 配当予想



下段 ■ が中間配当、上段 ■ が期末配当を示す。

※2022年3月期は記念配当9円を含む金額

# 株主還元策（株主優待制度）

- 2024年1月より、基準日を毎年9月末から毎年3月末に変更。
- 保有単元数や付与されるポイントなどの基準日以外の変更はない。

## 株主優待制度

毎年3月末の当社株主名簿に記載又は記録された3単元(300株)以上保有の株主様を対象とし、保有株式数に応じてポイントを贈呈いたします。贈呈されたポイントは、株主様限定の特設ウェブサイト「白銅プレミアム優待倶楽部」において、5,000点以上の厳選された商品からお好きな商品、他のプレミアム優待倶楽部導入企業の優待ポイントと合算可能な共通株主優待コイン『WILL s Coin』に交換することができます。

株主優待ポイント表（1ポイント≒1円）

保有株式数	付与されるポイント	贈呈時期
300株未満	0ポイント	—
300～399株	3,000ポイント	毎年5月
400～499株	5,000ポイント	
500～599株	10,000ポイント	
600～999株	20,000ポイント	
1,000～1,999株	30,000ポイント	
2,000～2,999株	40,000ポイント	
3,000株以上	50,000ポイント	

商品の一例



# 中期経営計画達成に向けた取り組みと進捗状況 (2023年3月期～2025年3月期)

# 中期経営計画2年目（2024年3月期）実績の振り返り

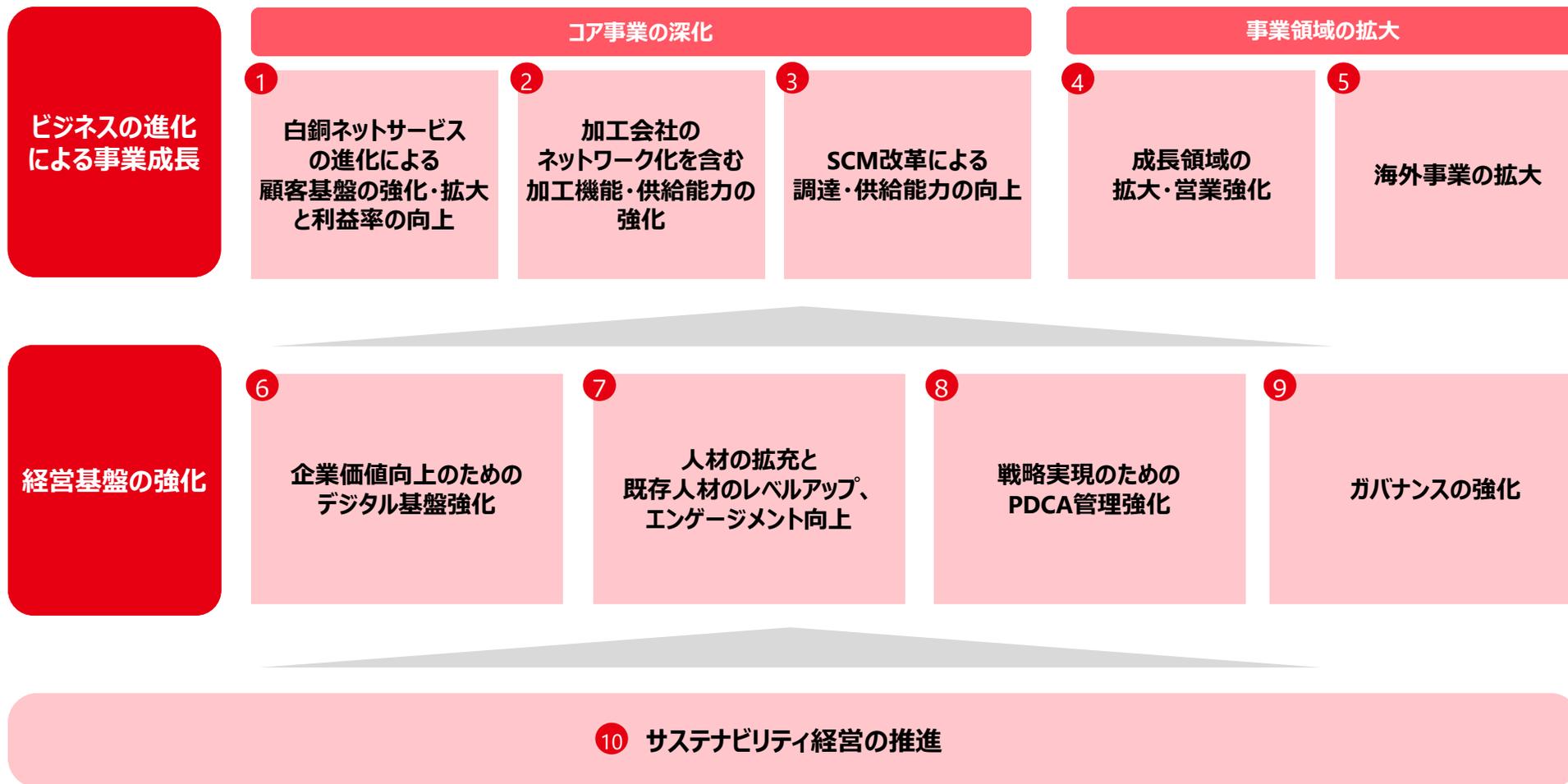
- 主力の半導体製造装置業界の需要停滞継続および回復の遅れによる販売量減少や、運賃、電気料金をはじめとする各種コストの上昇などにより未達成。
- 業績予想の下方修正を第3四半期に実施。

(百万円)	2024年3月期				差異	達成率
	実績値	売上高比率	中期経営計画目標値	売上高比率		
売上高	57,253	-	66,800	-	△9,546	85.7%
営業利益	2,523	4.4%	4,400	6.6%	△1,876	57.3%
経常利益	2,847	5.0%	4,500	6.7%	△1,652	63.3%
棚卸資産影響額 (△は損)	105	0.2%	-	-	-	-
経常利益（棚卸資産 影響額を除く）	2,741	4.8%	4,500	6.7%	△1,758	60.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,916	3.3%	3,100	4.6%	△1,183	61.8%

# 中期経営計画の重点戦略方針

ダントツ戦略をベースに、2025年3月期までにビジネス進化と経営基盤の強化及びサステナビリティ経営の推進を図る。

## 経営課題と重点戦略方針



\*詳細は2022年5月26日開示の「中期経営計画」をご参照ください

# 中期経営計画2年目（2024年3月期）施策の振り返り

- 白銅ネットサービスの機能強化や商品アイテム数増加による利便性向上
- 太陽光パネル設置や環境に配慮したEco商品導入などサステナビリティ経営も推進

年月	施策の実施状況	関連する重点戦略方針
2023年4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 三重県伊賀市に新拠点（伊賀倉庫）を設置。ウォータージェット切断機・マシニング加工機・ワイヤーカット機等の稼働を開始</li> <li>✓ 管理本部と経営企画本部を統合・改組して「経営管理本部」を新設</li> <li>✓ ESG・SDGsを推進する専任部門として「ESG・SDGs推進室」を新設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②加工会社のネットワーク化を含む加工機能・供給能力の強化</li> <li>⑩サステナビリティ経営の推進強化</li> </ul>
7月	✓ ESG/SDGs経営委員会7つ目の分科会となる「新商品・新サービス分科会」を発足	⑩サステナビリティ経営の推進強化
7月	✓ 白銅ネットサービスをオープンサイト化、ログイン不要での価格見積りが可能に	①白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上
9月	✓ 電気自動車導入	⑩サステナビリティ経営の推進強化
9月	✓ 白銅ネットサービス「金属3Dプリンター造形」の自動見積り・注文機能追加	①白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上
10月	✓ 標準品営業本部に販売促進課を新設、インサイドセールス活動強化による総受注率の向上を目指す	④成長領域の拡大・営業強化
10月	✓ 白銅ネットサービス材料以外のアイテム数が50,000アイテムを突破	①白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上
11月	✓ 白銅ネットサービスに、Web上で穴あけ・切り欠き加工の指定ができる「図面描画」機能、図面3DCADデータから自動で必要な材料を提示する「材料取りアシスト」機能を追加	①白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上
12月	✓ Eco63S四角棒発売開始	⑩サステナビリティ経営の推進強化
2024年1月	✓ 滋賀工場に太陽光パネルを設置	⑩サステナビリティ経営の推進強化
2月	✓ 新年度社員研修プログラム運用開始	⑦人材の拡充と既存人材のレベルアップ、エンゲージメント向上
3月	✓ 人事評価制度改訂	⑦人材の拡充と既存人材のレベルアップ、エンゲージメント向上

# 重点戦略の実施状況 (1)

## (1) 白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上

当社標準在庫品  
約**5,400**アイテム  
+  
他社在庫品(取寄せ)  
約**79,500**アイテム  
※2024年3月末時点

ご利用企業様数  
約**11,800**社様  
ご登録ユーザー様数  
約**24,100**名様  
※CSネットサービスの登録件数を含む  
※2024年3月末時点

海外ECパッケージ  
タイ導入済み  
中国・米国は  
第2四半期に導入予定

便利な新機能導入済み  
「金属3Dプリンター造形  
見積・注文」  
「図面描画」  
「材料取りアシスト」

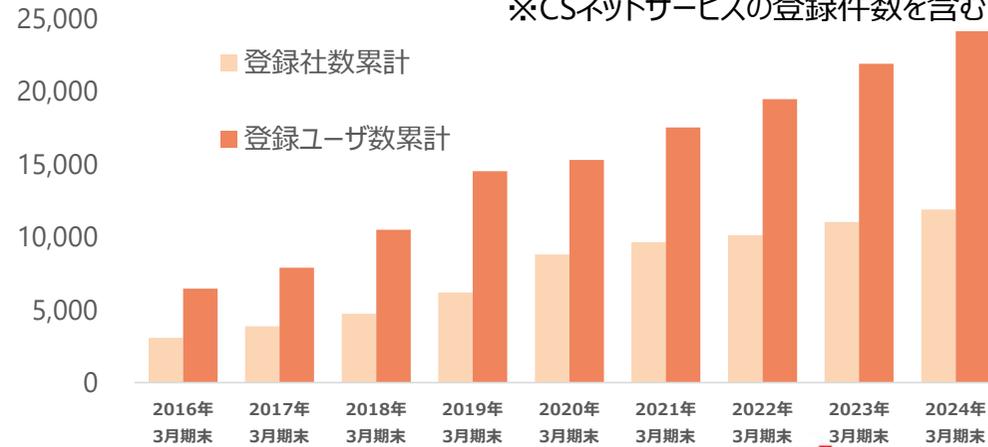


【白銅ネットサービス ご利用可能アイテム数】



【白銅ネットサービス ご利用登録社数推移 (累計)】

※CSネットサービスの登録件数を含む



# 重点戦略の実施状況 (2)

## (2) 成長領域の拡大



### 専門部署による業界の集約

半導体関連の販売先を専門部署に集約し、業界ナレッジを蓄積する仕組みを構築



### 新規顧客獲得

金属3Dプリンターを契機に自動車関連の新規顧客を獲得し、他商材の拡販も展開

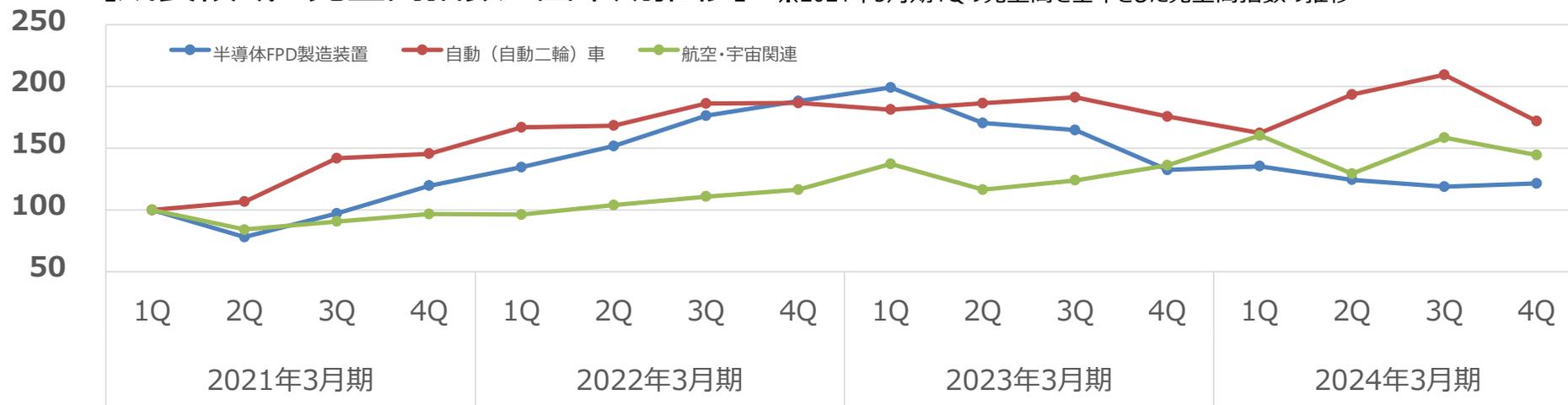


### 伊賀倉庫（三重県伊賀市）新設

ウォータージェット切断機・マシニング加工機・ワイヤーカット機などの加工設備を集約

【成長領域の売上高指数の四半期推移】

※2021年3月期1Qの売上高を基準とした売上高指数の推移



# 重点戦略の実施状況（3）

## （3）海外事業の拡大

- 2023年3月に当社のグループ会社となったWest Coast Aluminum & Stainless, LLCの100日間のPMI（事業統合）が終了。ECパッケージ導入・切断販売開始等事業拡大のフェーズに入った。
- 海外売上高比率では、中期経営計画3年目（2025年3月期）の目標値である白銅グループ海外売上高比率12%を前倒しで達成。

### 活動状況

#### ◆ 販売品目の拡大

タイを中心に海外子会社でのEコマース事業の拡大を実施中。

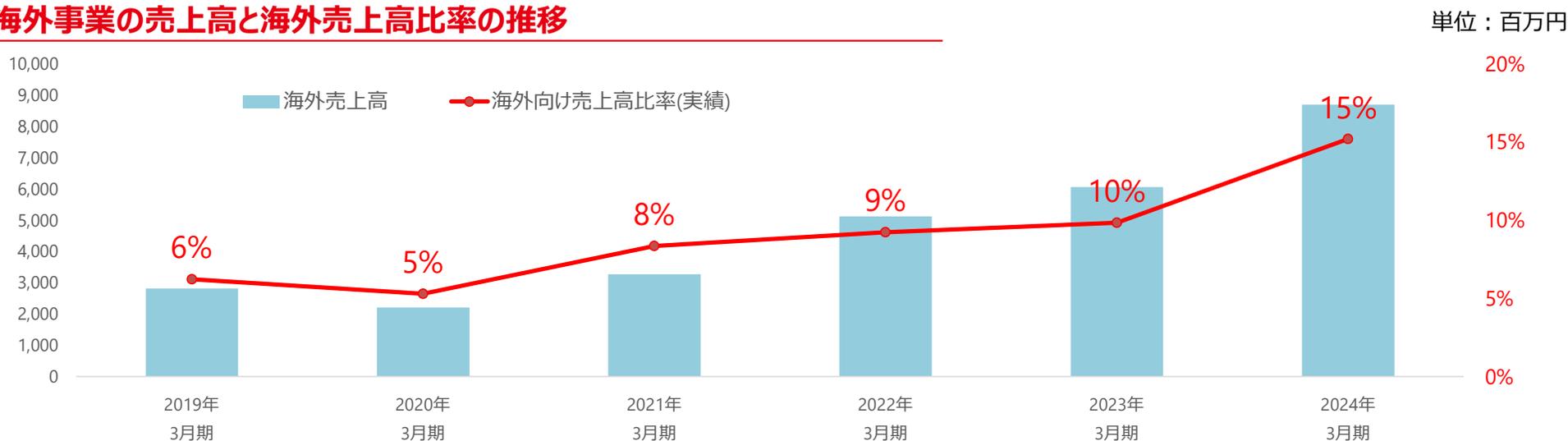
東南アジアでは、ベトナムを中心に販売代理店パートナー経由の売上高拡大を目指す。

米国子会社での非鉄金属の輸入卸売・加工事業を開始済。またEコマース事業を第2四半期に開始予定。

#### ◆ 出資・提携先の検討

米国・韓国・台湾を中心に、更なる投資先の検討および訪問、協議を実施中。台湾では、一部、試験的な取引開始済。

### 海外事業の売上高と海外売上高比率の推移



※海外売上高は海外子会社売上高と海外子会社以外への本社輸出売上高の合計金額で算出

# 2025年3月期の取組予定

- 2025年3月期の重点戦略方針の主な取組予定は以下のとおり
- 海外事業拡大による売上高増加や、白銅ネットサービス進化による利益率向上により、中期経営計画の達成を目指す

重点戦略方針		2025年3月期 取組予定（一部抜粋）
ビジネスの進化による事業成長	① 白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 取扱アイテム数の更なる拡充、粗利益の増大</li> <li>✓ 白銅ネットサービス（CSネットサービス含む）利用者数の増加</li> <li>✓ 海外子会社におけるECサービスの導入</li> </ul>
	② 加工会社のネットワーク化を含む加工機能・供給能力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 図面加工サービスの強化、自動見積機能の運用</li> <li>✓ レーザー加工機導入等による加工サービス強化</li> </ul>
	③ SCM改革による調達・供給能力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 省人化・工場平準化のための自動加工機の追加導入</li> </ul>
	④ 成長領域の拡大・営業強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 顧客ニーズのヒアリングとメーカーへの情報伝達</li> <li>✓ 新加工設備を活用した業界への拡販</li> <li>✓ 新規休眠顧客・既存顧客に特化した営業活動の展開</li> </ul>
	⑤ 海外事業の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 米国子会社の事業拡大</li> <li>✓ 韓国・台湾についての出資先検討</li> </ul>
経営基盤の強化	⑥ 企業価値向上のためのデジタル基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ RPA・IoTを用いた業務効率化</li> </ul>
	⑦ 人材の拡充と既存人材のレベルアップ、エンゲージメント向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ジョブ型を採り入れた人事制度の見直し</li> <li>✓ 従業員満足度向上に向けた福利厚生拡充</li> </ul>
	⑧ 戦略実現のためのPDCA管理強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 統合報告書の作成及び開示</li> </ul>
	⑨ ガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ JIS Q 27001の取得範囲拡大</li> </ul>

# サステナビリティ経営の取組状況（1/3）



- ESG/SDGs経営委員会の下に設置した分科会の活動項目や目標に対して、現状までの取り組み状況を下表に記載。取り組み状況などを取締役会に報告し、提言や助言を踏まえて活動中。
- CO<sub>2</sub>排出量は2030年度までの削減目標を前倒しで達成。
- 滋賀工場への太陽光パネル設置や営業車におけるEV導入など、CO<sub>2</sub>排出量削減に向けた取り組みを実施。太陽光パネルにおいては、福島工場への導入も決定。

マテリアリティ	取組テーマ	2025年3月期までの活動目標	2025年3月期までのKPI ※1	2024年3月期までの取組状況
1. 環境負荷軽減・気候変動対応	CO <sub>2</sub> 排出量の削減	2020年度比で①2030年度までに42%削減、②2050年度までにカーボンニュートラル達成に向け、具体的な削減策に着手する	● CO <sub>2</sub> 排出量	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 滋賀工場への太陽光パネル設置</li> <li>✓ 福島工場への太陽光パネル設置準備</li> <li>✓ 電気自動車2台導入</li> <li>✓ FIT非化石証書の購入</li> <li>✓ CDP（カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）の開示対応</li> </ul>
	製造効率の改善	配送効率改善・産業廃棄物削減・スクラップ率低下などにより、天然資源の節約・枯渇抑制、環境汚染抑制による社会貢献を実現する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 消費電力量</li> <li>● 運賃逓減率</li> <li>● 廃棄物金額</li> <li>● 製造部門消耗品費</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 配送網の再構築による効率化など配送効率の改善活動を実施</li> <li>✓ 設備の待機電力削減</li> <li>✓ 切削油リサイクルの施策を継続実施</li> <li>✓ 環境に配慮した梱包資材の導入</li> </ul>
2. 責任あるサプライチェーンの構築	環境配慮製品の強化	環境負荷の少ない商品（ECO商品等）を安定供給することで、環境負荷に配慮した経営を行うことで社会貢献を行う	● ECO商品販売重量	✓ ECO商品拡販とECO商品ラインナップ拡充
	グリーン調達の促進	白銅独自のグリーン調達ガイドラインを、サプライヤーに遵守協力頂くことで、環境負荷に配慮した経営を行うことで社会貢献を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グリーン調達ガイドラインの遵守先との覚書取交件数</li> <li>● グリーン調達率</li> </ul>	✓ 各取引先との覚書の取り交わし実施
	サプライヤーとの関係強化	サプライヤーと協力し、CO <sub>2</sub> 削減に配慮した施策を行うことで、サプライチェーン全体におけるCO <sub>2</sub> 削減を促進することで社会貢献を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グリーンアルミ調達先発掘</li> <li>● リサイクルアルミ調達先発掘</li> </ul>	✓ CO <sub>2</sub> 排出を抑えた“ECO63S四角棒”の販売開始
	人権の尊重	サプライチェーン上のパートナーと協力し人権に配慮した経営を促進する活動を行うことで社会貢献する	● 自社における人権ポリシーの策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 人権デューデリジェンスへの取り組み開始</li> <li>✓ 白銅グループ人権方針の制定</li> <li>✓ 人権に関する実態調査の実施</li> <li>✓ 全従業員への教育実施</li> </ul>

※1 2023年3月期～2025年3月期の3か年間の社内におけるKPI



# サステナビリティ経営の取組状況 (2/3)



マテリアリティ	取組テーマ	2025年3月期までの活動目標	2025年3月期までのKPI ※1	2024年3月期までの取組状況
3. 社会への取り組み	次世代への貢献	日本のものづくりの発展や人材育成を支援することで、次世代の技術の発展や人材育成に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 産学協働検討案件数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大学の研究室へ訪問し、協働可能な新規案件を模索</li> <li>✓ 学生向けの工場見学会の開催</li> <li>✓ EVレーシングカー部品用の金属材料提供</li> </ul>
	社会への貢献	持続可能な社会への貢献を行うことで、従業員が誇りを持ち、社会から信頼される企業になる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域社会、団体への貢献活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 寄付型自動販売機5台の設置</li> <li>✓ 社内の書籍を収集し古本募金を実施</li> <li>✓ 日本赤十字社(能登半島地震義援金)への寄付</li> <li>✓ 日本ユニセフ協会への寄付</li> </ul>
4. 人材への投資	従業員満足度向上	従業員満足度の向上により、従業員各自の生産性や顧客対応へのモチベーションを高め、社会に与える影響力(社会貢献)、会社の業績に与える影響力を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 離職率</li> <li>● 有給取得率</li> <li>● 男性の育休取得率</li> <li>● 重大なヒヤリハット件数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 子育て、介護が原因で退職される従業員の防止策の検討</li> <li>✓ 福利厚生充実と従業員への浸透活動</li> <li>✓ スポーツクラブ利用促進のためのサポート実施</li> <li>✓ 職場巡視によるヒヤリハットの未然防止</li> <li>✓ ストレスチェックによる課題の把握および対策の検討</li> </ul>
	ダイバーシティの促進	多様な人材を登用、活用することで組織の生産性や競争力を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性従業員比率</li> <li>● 女性管理職比率</li> <li>● 外国籍管理職比率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 女性管理職研修及び女性管理職育成研修の実施検討</li> <li>✓ 処遇面における公正性、透明性の確保</li> <li>✓ 成果を出した従業員が、さらに挑戦できるように適切かつ公平な仕組みの検討</li> </ul>
	社員教育の拡充	業務上で必要な知識・スキルの提供。また知識やスキルを身に着ける為の機会を提供する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一人当たり教育費用</li> <li>● 研修受講比率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 人事評価ルールの改訂</li> </ul>

※1 2023年3月期～2025年3月期の3か年間の社内におけるKPI

# サステナビリティ経営の取組状況 (3/3)



マテリアリティ	取組テーマ	2025年3月期までの活動目標	2025年3月期までのKPI ※1	2024年3月期までの取組状況
5. コーポレートガバナンス	違反者ゼロ	ゼロ・トーランスを目指し、教育を実施する	● コンプライアンス違反件数ゼロ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ コンプライアンス研修の実施</li> <li>✓ コンプライアンスにおける理解度チェックの実施</li> </ul>
	ポリシー遵守状況確認	各ポリシーの遵守 ※現状のポリシー及び基本方針は以下の通り ・プライバシーポリシー ・コーポレートガバナンス基本方針 ・サステナビリティ基本方針 ・ディスクロージャー基本方針 ・社内環境整備方針	● 左記ポリシー、方針の対応状況確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ コンプライアンス教育の実施</li> <li>✓ 情報セキュリティ教育の実施</li> <li>✓ 教育動画を配信し、全従業員の遵守度向上を推進</li> <li>✓ 方針・ポリシーガイドブックの配付</li> </ul>
	事業リスク・災害への対応強化	事業リスク評価とBCP見直しを徹底。また、災害が発生しても訓練・対策実施により、従業員の安全確保と円滑に業務を再開する仕組みを作る	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リスク評価ポイント</li> <li>● 防災訓練等の実施数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ リスク評価ポイントの見直し</li> <li>✓ 全社一斉の安否確認訓練実施</li> <li>✓ 防災訓練実施</li> </ul>
6. ESG/SDGs 経営委員会の社内浸透活動	社内浸透活動の推進	ESG/SDGsに関する啓蒙活動、イベントを行うことで、会社としてESG/SDGsに対する意識向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ESG/SDGsの従業員定着率(アンケートで調査予定)</li> <li>● エピソードコンテストの累計件数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ サンクスカードを導入し、従業員同士のコミュニケーションを推進</li> <li>✓ ESG/SDGs関連のポスター・書籍・動画の配布・配信</li> <li>✓ SDGsを絡めたビジネスプランの検討</li> </ul>
7. ESG/SDGsに関連した新商品・新サービスの創出	商品・サービスの具現化	新商品・新サービスの創出	● 新商品・新サービスの導入件数	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ CO<sub>2</sub>オフセット関連の商品・サービスを検討中</li> </ul>

※1 2023年3月期～2025年3月期の3か年間の社内におけるKPI

# サステナビリティ経営の取り組み例

白銅は、モノづくりを通じた社会への貢献に加えて、自社農園による雇用創出など幅広い活動を行っています。

## 白銅ファーム



白銅は障がい者就労促進の一環として白銅ファームを運営しています。神奈川県横浜市と埼玉県三郷市に拠点を設け、2024年4月現在、12名の従業員が在籍しており、葉物野菜をメインに約30種類を栽培しています。

収穫した野菜は、子ども食堂への寄付や当社従業員に配布しています。

※ 2024年4月末時点の情報を元に作成

## スーパーミニマム チャレンジ



スーパーミニマムチャレンジとは、50ccエンジンによる最速記録に挑戦するプロジェクトです。米国ユタ州のボンネビルで毎年開催されています。

バイクには白銅が提供したアルミ材も使用された2019年大会では世界最速記録を更新しました。

最近では、3Dプリンター造形部品も使用されています。

## コマ大戦



コマ大戦とは、全国の製造業者が本気で制作したコマを持ち寄って戦うトーナメント式の大会です。各県で高校生コマ大会も開催されています。

神奈川県高校生コマ大戦には白銅が材料を支給して協賛するなど、日本のモノづくりの発展のための活動を行っています。

## 下町ボブスレー



下町ボブスレーは、大田区の小さな町工場が中心となり、世界トップレベルのソリを作り、産業のまち大田区の「モノづくりの力」を世界に発信するプロジェクトです。

下町ボブスレーの材料は白銅が無償提供しており、製作されたボブスレーは2023年1月の世界選手権で19位の成績を残しました。

(写真提供：国際ボブスレー連盟IBSF)

## ご清聴ありがとうございました

### ■ 白銅公式SNSアカウントについて

弊社では、LINE、Facebookの公式アカウントを開設し、商品紹介や展示会の出展案内などのお役立ち情報を定期的に発信しております。以下のQRコードから、是非、お友だち追加をお願いします！



### ■ 本資料における注意事項

この資料には、2024年5月現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

### ■ お問い合わせ先

白銅株式会社 経営企画課  
メールアドレス：hkdkeiki@hakudo.co.jp  
ホームページ：www.hakudo.co.jp